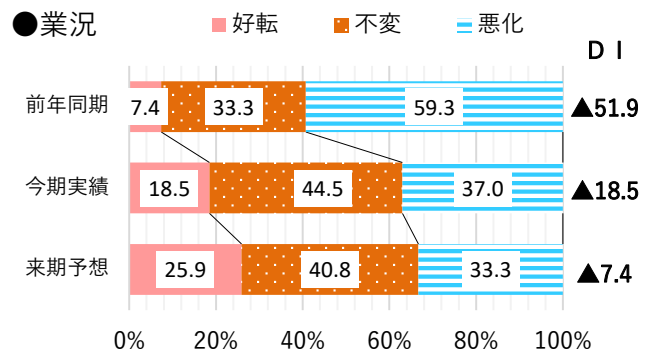


小 売 業

業況、売上、採算

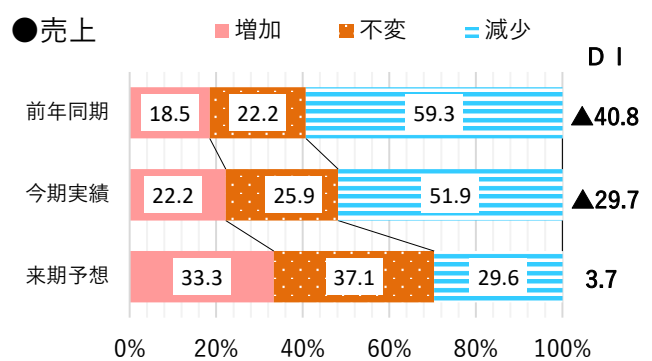
今期(2021.1~3)の業況判断DIは▲18.5で、前年同期(2020.1~3)と比べ33.4ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期(2021.4~6)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



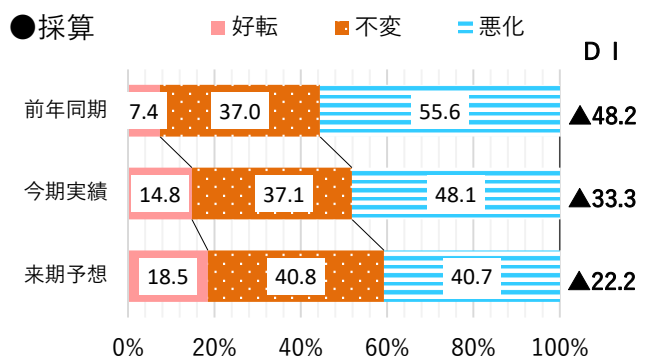
今期の売上高DIは▲29.7で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

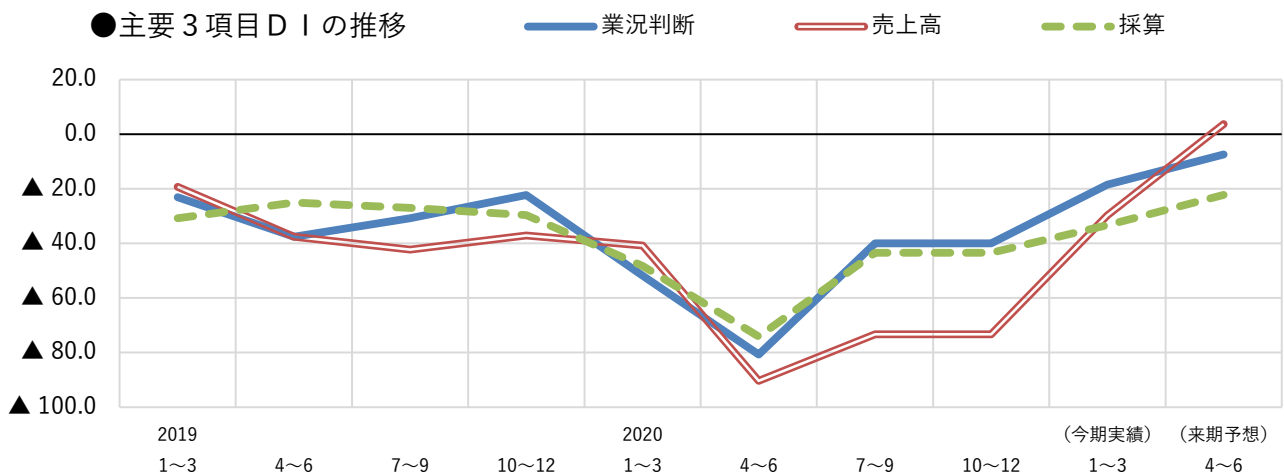


今期の採算DIは▲33.3で、前年同期と比べ14.9ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



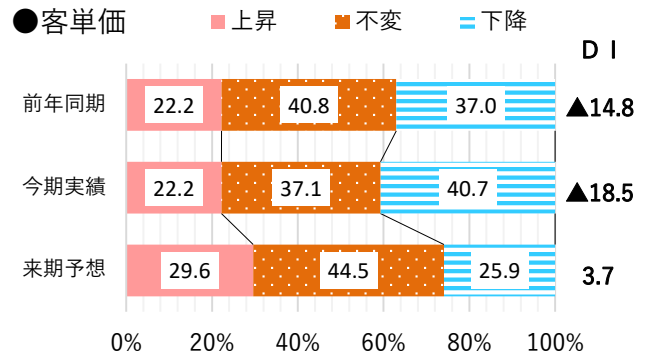
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

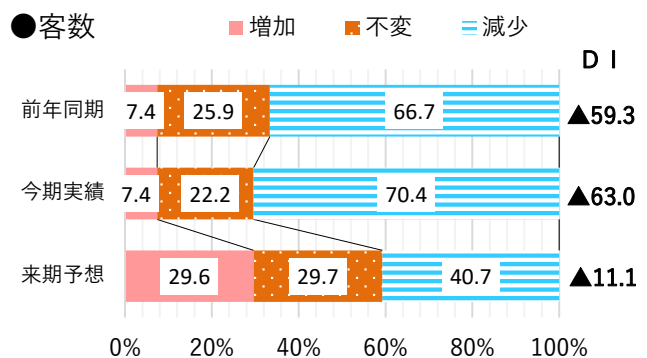
今期の客単価DIは▲18.5で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

来期は、客単価が上昇に転じると予想しています。



今期の客数DIは▲63.0で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

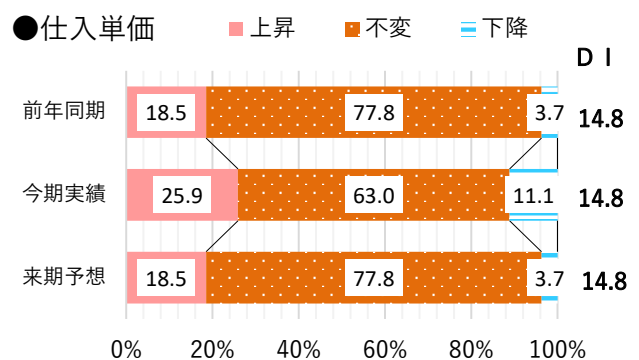
来期は、客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

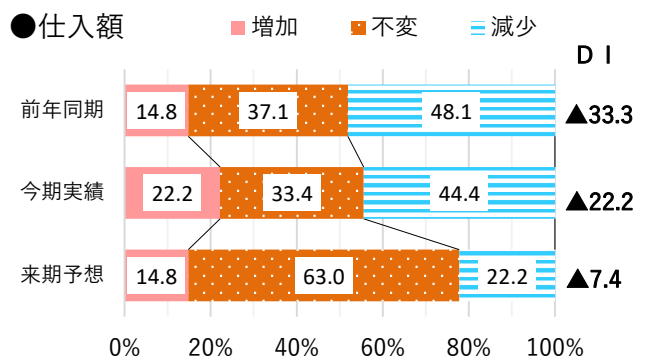
今期の仕入単価DIは14.8で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



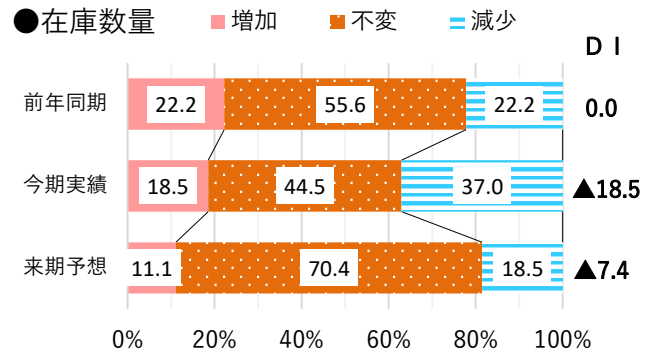
今期の仕入額DIは▲22.2で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、仕入額の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲18.5で、前年同期と比べ18.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

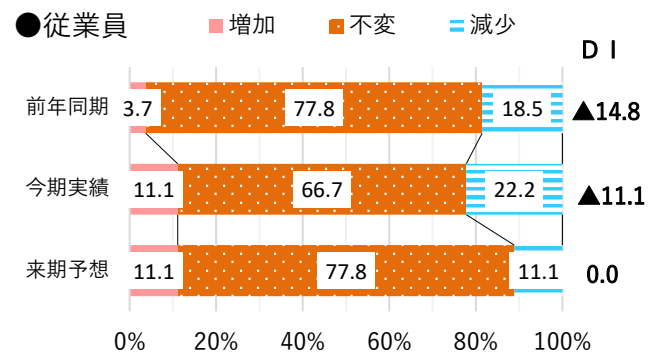
来期は、在庫数量の減少傾向が弱まると予想しています。



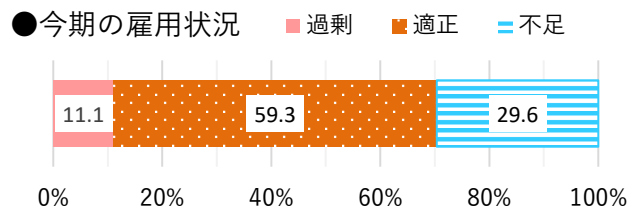
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.1で、前年同期と比べ3.7ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まり、横ばいになると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は11.1%、適正であると回答した企業の割合は59.3%、不足していると回答した企業の割合は29.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の44.4%を占めています。

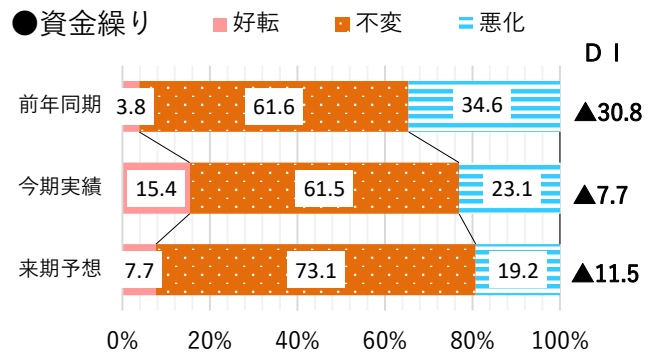
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	2
不変だった	過剰	1
	適正	12
	不足	5
減少した	過剰	2
	適正	3
	不足	1

資金繰り、設備投資

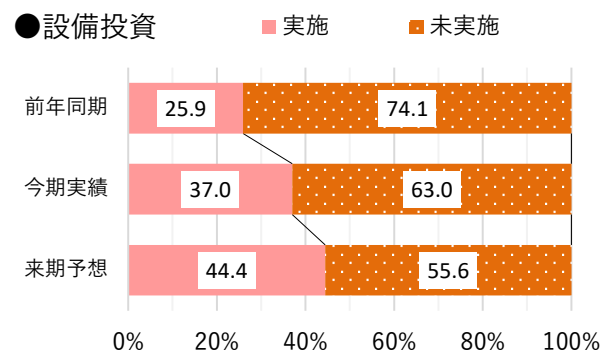
今期の資金繰りDIは▲7.7で、前年同期と比べ23.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



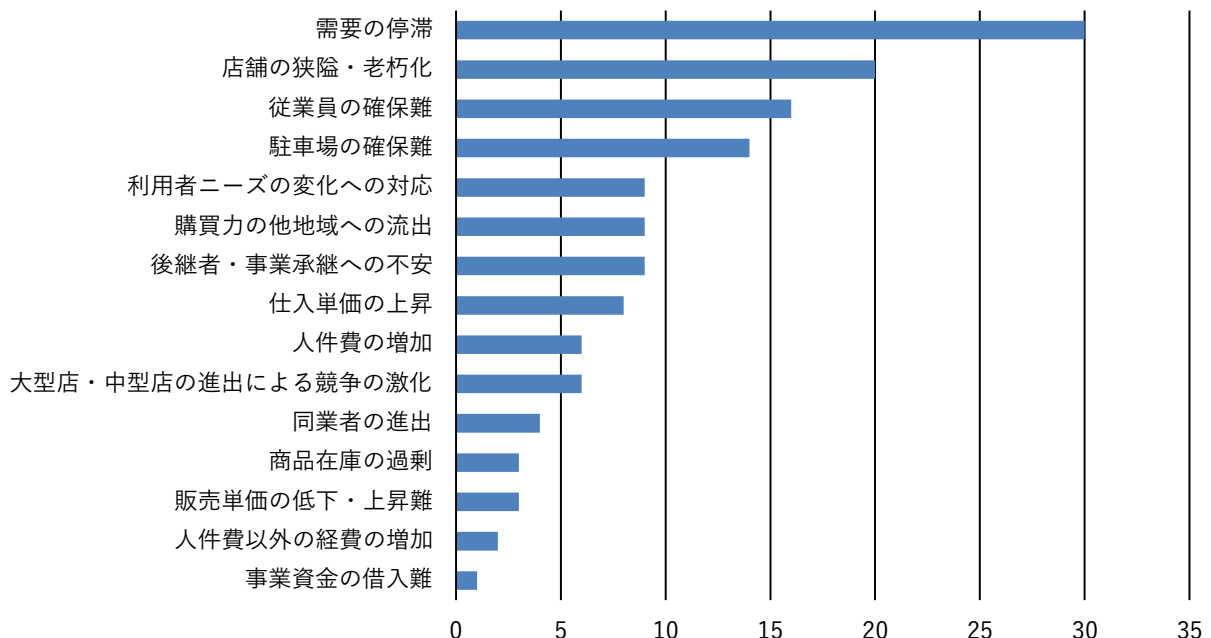
設備投資を実施した企業の割合は37.0%で、前年同期と比べ11.1%増加しました。投資内容は1位が「販売設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は44.4%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「店舗の狭隘・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 飲食店の営業自粛や宿泊施設の利用者減少によって、売上が大きく減少した。一般家庭の需要も落ち着きつつある。ネット販売は、東京周辺からの購買が減少したため低調だったが、昨年秋から始めた新部門の売上が好調のため、今後注力したい。(食料品小売)
- 昨年末の新型コロナウイルス感染者数増加により、業況が悪化した。(食肉小売)
- 新型コロナウイルスの感染拡大によって、客数が減少した。(菓子製造小売)
- 政府のデジタルガバメント推進によって、かえって印章彫刻への注目が高まり、売上が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- 安価で仕入れた商品の売上が好調で、採算が好転した。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルス終息の見通しが立たない。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスによって車の利用頻度が低下し、故障車や事故車の修理に係る収益が減少した。販売台数も減少した。人材確保が課題である。最低賃金は変わらなかった。(自動車小売)
- 売上は減少したが、客単価は上昇した。採算は不変だった。高齢化や人口減少により整備技術者の採用が進まず、人材が不足している。(自動車小売)
- 前年より雪が多かったため、仕事が増えた。(自動車小売)
- 物流コストの上昇と人材確保に悩まされた。(自動車小売)
- 原油価格の上昇のため、商品仕入額と売上が増加した。(燃料小売)
- 新型コロナウイルスの流行後初の年末年始で、多少の盛り上がりを期待したが、大きな変化は無かった。福袋販売や年始のイベントの際に、密にならない工夫や分散型の販売方法を採用したことも苦戦の一因と考える。不要不急の外出を避ける生活様式が、国民の日常に根付いたように感じる。(大型店)
- 前年同期比で売上が10%減少、客数が15%減少、客単価が5%増加した。昨年度は従業員の減少に対し補充を行わなかったが、本年1月から5名程度の採用活動を開始した。(大型店)
- 年度末に備品を修繕したので、経常利益が悪化したが、粗利は増加した。(大型店)
- 新型コロナウイルスの影響は続いている。客数の減少が業況の主な悪化要因である。(ドラッグストア)
- コロナ禍によって売れ筋商品の移り変わりがあったが、全体的に好調だった。(家電量販店)
- 今のところ資金は足りているが、先が見通せない状況下では予断を許さない状況である。(花・植木小売)
- 需要が下火になり、客数が減少した。(ホームセンター)
- 客数が減少し、最悪の状況だった。(コンビニ)

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルスの動向によっては好転が期待できるが、大きな回復は見込めない。コロナ禍が終息に向かっても、社会は従来と異なる生活様式を模索するため、当面は注意が必要になる。(食料品小売)
- 新型コロナウイルスと大型店の開店に伴い、業況の悪化を予想する。(食肉小売)
- 新型コロナウイルスの動向が懸念されるが、昨年同期よりは人出が多いと思われる。(菓子製造小売)
- 印章彫刻の需要は、今期同様高水準で推移すると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスの終息と、消費マインドの向上を期待する。(自動車小売)
- 新型車の投入を予定するが、業況は変わらないと思われる。(自動車小売)
- 景気が悪いため、業況は変わらない。(自動車小売)
- 売上、客数ともに多少の回復を見込むが、コロナ禍以前の水準までの回復は期待できない。(大型店)
- 人の流れが戻らなければ、回復は期待できない。あと少しの辛抱と思い努力したい。(大型店)
- 売上の増加を見込むが、経費も増加すると思われる。(大型店)
- 新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのかという点に左右される。(ドラッグストア)
- オリンピックの開催が予定されているため、テレビ等の販売増加が期待できる。(家電量販店)
- 仕事量の回復には、時間がかかるとと思われる。(花・植木小売)
- 客数の減少傾向が続くと思われる。(ホームセンター)
- 新型コロナウイルスが終息しない限り、状況は変わらない。(コンビニ)